

<エントリーシート> ※事務局記入欄 No.: C - 18	H31 年度部門 校内研修部門	学校名 松山市立坂本幼稚園
	活動名 幼児の育ちを伝える ～小規模園でも可能な発信の工夫～	

課題の設定：

幼児教育は主体的な遊びを中心に展開されるため、育ちや学びが捉えに難しいと言われている。本園は小規模園であるため、幼児のみならず保護者とも個別の対応がしやすく、口頭でエピソードを伝え幼児の様子や育ちを伝えることが多かった。しかし、保護者アンケートやフリー参観の振り返りから、十分に伝わっていない実態が浮き彫りになった。そこで、より伝わりやすくわかりやすい発信の方法を工夫することで、幼児の育ちや学びを伝えていくこととした。

方針・計画：

【発信の視点】

- ① わかりやすさ→写真やコメントによる可視化
- ② 共感しやすさ→新鮮な情報提供、育ちのプロセスを意識した場面抽出
- ③ 伝えやすさ→少人数の職員でも負担の少ない方法の選択

【期待される効果】

- ① 幼児の育ちへの理解推進
- ② 保護者・地域・小学校等との連携推進
- ③ 振り返り（幼児・児童・教師）に有効

活動内容：

- 1 ヴィジブルな通信の発行、HP の活用
月刊「みんなで、わお!」、幼幼交流「くにキッズニュース」等の随時配布（写真1・2）
HP「芝生化日記」を毎日更新
- 2 おさんぽマップの充実
即日掲示した写真を学期ごとのマップに集約させ、常時掲示し保護者や地域の方に公開（写真3～5）
- 3 幼小交流活動でのドキュメンテーションの活用
幼児や児童の次への期待や振り返り（写真6）、幼小教員の相互理解
- 4 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の活用
フリー参観、幼小連携、幼保合同研修等を通じて

活動の成果：

- 1 幼児の育ちや教師の意図への理解が進んだ
 - ① 「お友達と一緒に物を持つのがうれしいですね。」「ここまで、歩いたんですね。体力も付いてきたんですね。」との成長に関する声が保護者から聞かれるようになった。
 - ② 「先生が首飾り付けてたら、作りたくなりますね」「年長組の特権もあっていいですね。」と教師の意図を汲む声も聞かれる。
- 2 対話が広がった
 - ① 家庭での広がり
「通信の写真を見ながら、お友達の名前を次々教えてくださいました。」「キノコを最初に発見したと、うれしそうでした。」との保護者からの声

- ② 幼小交流活動を行う5年生との広がり
ドキュメンテーションを見ながら「ヌルヌルしたね」「次は稲刈りだ」と振り返りや期待を共有（写真6）
 - ③ 研修の場での広がり
ヴィジブルな記録や10の姿を活用することで、園内研修や他校種間の意見交換が活発に。
- 3 教師の心情の変化と幼児理解が進んだ
肯定的な反応が励みになり、発信者の意識が積極的に「伝えたい」という意識へと変化した。また、わかりやすい育ちの場面を撮ったりコメントを記したりする中で、より幼児の心情を捉えようとするようになった。
- 4 教師の負担感が少ない発信となった
ヴィジブルな発信が好評であること、相互理解のツールとしての有効性を実感したことで、教師自身も楽しんで発信しており、負担感は少ない。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ・幼児の育ちを肯定的に理解する輪が広がった。
- ・幼児自身の活動の振り返りや見通しに有効であった。
- ・教師の意欲やスキルが向上し、少人数職員でも負担感の少ない発信となった。

（写真1）月刊「みんなで、わお！」



（写真2）くにキッズニュース



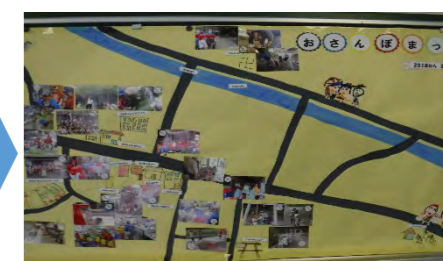
（写真3）おさんぽマップ



（写真4）



（写真5）



登園時 目的地掲示 ⇒ 降園時 写真掲示 ⇒ 学期別マップに写真集約し再掲示

（写真6）幼小交流活動でのドキュメンテーションの活用

